

熊野磨崖仏

これらの見事な浅浮き彫りの仏像は、国内最大級の磨崖仏です。右上の仏像が大日如来で、摩訶毘盧遮那仏とも呼ばれ、高さは約 6.8mあります。京都の彫刻家により 10 世紀または 11 世紀に作られたものとされています。

仏像の頭上には 3 つの曼陀羅が彫られていることが分かります。左手の仏像は不動明王で、人々が安全と健康を祈って崇める明王です。大きさは 8mで、12 世紀に見習いの僧によって彫られたと考えられています。不動明王像の多くは恐ろしい形相をしていますが、この像では珍しく穏やかな表情をしています。どちらも、極楽浄土は努力の実践と秘められた技術により到達できると考える密教を象徴する像です。（伝説によると、この磨崖仏に続く乱積された石段は、人間の肉を対価として約束された鬼が一夜にして急いで作ったものとされています。）